

葛生産業協会の主催による講演会があり、参加してきました。
私も、納得した内容でしたので、記載します。

演題：尖閣問題で揺れる日中関係と中国ビジネス

講師：葉 千栄 様

役職 東海大学教授
上海復旧大学日本研究センター特別研究委員
中国中央人民ラジオ局特別解説委員

出生地 中国上海市
横浜市在住
早稲田大学大学院政治研究科修士修了

領土問題についての中国側の主張、日本側の主張について、の説明がありました。
各々の理由があり、この問題を理解すること自体大変であると感じました。

講演の中で印象に残ったのは、1972年7月7日に内閣総理大臣に就任した田中角栄
が、外務大臣小平正芳と中華人民共和国を訪問し、国交正常化に調印した内容です。

その中で、「未来志向」のもと、中国側が戦争賠償責任は要求しない、尖閣問題はない、
として国交正常化を進め、現在の貿易に繋がっている点です。この時、難しい尖閣問題
は次世代に委ねたことです。

今、日中間の貿易総額は27.6兆円(2011年、1970年の約1,000倍)にも拡大しています。
尖閣問題は、1968年の海底調査の結果、東シナ海の大陸棚に石油資源が埋蔵され
ている可能性があることが指摘されて、中国、台湾が領有権を主張し始めたとのこと。

この問題は、話し合い続けないと解決しないと思いました。

中国で発生しているデモや破壊行為は、経済(格差)への不満、ネット上などでの誘導や
メディアの関係等が考えられるとのこと。現状をよく把握して、冷静に見て行くことが必要
とのことでした。

最後に、東アジアの安全と経済の発展をねがっています、纏められました。

熱のこもった講演に、感動を受けました。